

釜戸小だより

思いやりと活力あふれる学校
～今よりも、もっといい自分 いい釜戸小～

令和3年1月6日
第13号
1月号
瑞浪市立釜戸小学校

謹賀新年 本年もよろしくお祈りします

あけましておめでとうございます。令和3年が始まりました。ご家庭では、感染予防に努め、家族でゆっくりとよいお正月を過ごされたことと思います。本年も学校の教育活動にご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



目標をしっかりとち、努力できる3学期や1年に

まだしばらくは感染予防に努めなければなりません。そんな状況においても、やるべきことをきちんと理解し、目標をもって努力できる1年にしていきたいと考えています。そのためには、この3学期をどう過ごすかがとても大切です。それは、今の学年のまとめをして、1つ上の学年にすすむ準備をする学期になるからです。学校では、この3学期に次のことを大切に指導していきたいと考えています。

○3学期や今年1年の目標をもつ

新年を迎え、新たな気持ちになっている子も多いと思います。その気持ちを大切に、今年1年の目標をもたせたいと思います。1年が無理なら3学期の目標でもよいと思います。何を頑張っていくのか意識できることが、子どもの成長のためには必要だと考えています。

○苦手なことから逃げない

今の学年で身に付けなければならないことについては、一生懸命努力して身に付けてほしいと思っています。もちろん、苦手なことがある子もたくさんいます。しかし、それから逃げないことが大事だと思います。努力しても身に付かないことがあるかもしれませんが、あきらめずに努力しようとする姿勢をつくることは、その子の将来のためにはとても大事なことだと思います。

○1つ上の学年で求められることを具体的に理解する

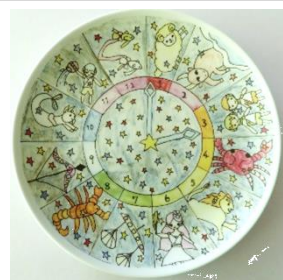
3学期は次の学年の準備をする学期です。1つ上の学年で何が求められるのかを具体的に理解してほしいと思います。6年生は中学校に進学します。半日入学が中学校生活や学習の仕方を理解する場になります。1～5年生は、1つ上の学年の姿をよく見て学んでほしいと思います。勉強や学級での生活の仕方、委員会やクラブなどの進め方について、話を聞いたり見たりして、理解してほしいと考えています。

○1つ上の学年で求められることを意識して、今から努力する

例えば、4月から最高学年となる5年生には、常に下学年をリードしていくことが求められます。自分のことはできて当たり前になります。自分が下学年により手本を示していけるように、学習面でも生活面でも今から意識して努力してほしいです。同様に2年生の子は3年生になり、低学年のリーダーになります。自分のことをさっさとやって、1・2年生にやさしく声をかけられるようになってほしいです。

入賞おめでとう！

| | | | | | | | |
|----------|-----|-------------|-------|----|-------|-------|----|
| 食器デザイン展 | 議長賞 | 5年 | ***** | さん | | | |
| | 入賞 | 1年 | ***** | さん | 1年 | ***** | さん |
| | | 4年 | ***** | さん | 4年 | ***** | さん |
| 瑞浪市人権書道展 | 市長賞 | 4年 | ***** | さん | 5年 | ***** | さん |
| | | 東濃西部税に関する習字 | 佳作 | 4年 | ***** | さん | |



<*****さんデザインの食器>

養護教諭（保健室の先生）の交代について

養護教諭 加藤 優香 が年末から産休に入ったため、古井 順子 に代わりました。養護教諭としての経験豊かな先生です。どうぞ、よろしくお願いします。

愛情あるきびしさと成長

子供は褒めて育てるのが基本だと考えています。もともともっている良さを認めることはもちろんですが、努力していること、できるようになったこと、やさしい気持ちなどを褒めて価値づけることで、子供は、もっとそのようにしていこうと思って伸びていきます。しかし、叱ることがだめだということではありません。きびしく接することも、時には必要です。愛情あるきびしさは、人を成長させるものです。

以前、6年生を担当していた時に、江戸幕府を開いた徳川家康への養育について子供たちに話したことがあります。それは、次のような話です。

家康を育てた「おごい教育」

徳川家康（幼い時の名前は竹千代）は、子供の頃、今川家に人質として送られ、桶狭間の戦いで今川義元が討ち死にするまで、今川家で育てられて過ごしました。人質として送られてきた竹千代の養育について、義元は「おごい教育をせよ。」と家来に伝えました。家来は、粗末な食事、きびしい学問や武術の稽古を課しました。竹千代は病弱だったという説もあります。しかし、きびしく養育されたことで体は丈夫になり、戦略を用いて後に幕府を開くほどの人物になりました。ところが、義元が家来に伝えた「おごい教育」の意味は、真逆の教育のことでした。つまり、贅沢をさせ、好き嫌いを言わせ、寝ただけ寝させて、学問や武術の稽古もやりたくなければやらせなくてよいということでした。そうやって育てれば、人間は必ずダメになるから、人質の竹千代にはそれでよいということなのでしょう。

人質とは言え、岡崎城主になる竹千代ですので、本当は大事に育てられたのではないかと思います。養育にあたった祖母や寺の和尚の名前も残っていますので、粗末な食事ではなかったかもしれません。しかし、甘やかされて育ったわけでもありません。学問や武術に一生懸命取り組んだことが、後の家康の成功につながっていると考えます。

みなさんは、お父さんやお母さんに叱られた時に、どんなことを考えていますか。自分のために叱ってくれていると思っていますか。自分のわがままを聞いてくれて、自分の欲しい物、例えばゲームなどをすぐに何でも買ってくれるお父さんやお母さんだったら、その時はうれしいかもしれません。でも、お金の大切さやゲームばかりでなくちゃんと自分で勉強することの大切さを教えてくれるお父さんやお母さんでなければ、後から困るのは自分です。自分にきびしいことを言ってくれる人がいることで、自分は成長していけます。もちろん、きびしさというのは深い愛情の上でのきびしさです。自分のためにと思って言ってくれていることが分かることが大切です。そして、だんだん大きくなってくると、人からきびしいことは言われなくなってきます。そうなるまでに、自分で自分にきびしくしていけるようになることが大切です。

単にきびしいだけでは、子供の心は豊かになりません。極端になると虐待につながります。しかし、甘やかせすぎると、子供は成長しません。子供の自立をめざす時、子供に必要なのは自分で自分の行いを適切にコントロールする力です。いけないことはしてはいけない、やるべきことはしっかりやらなければいけないと理解し、それをきちんと行いにつなげられるようにすることです。それを教えるのは、周りの大人、特に親や教師の役割です。子供が自分で自分にきびしくし、行いをコントロールできるようになるまで、愛情をもって、時にはきびしく接して、子供を育てていかなければならないと思っています。



＜竹千代の石像＞